

九州兼喜

2014.1

No. 119



謹んで新年の
ご祝詞を申し上げます



年頭のご挨拶

九州兼喜会
会長

篠森 義晴



新年明けましておめでとうございます。

清水建設九州支店の皆様、又、九州兼喜会の皆様におかれましては、晴れやかな新春をお迎えになられましたことと、謹んでお慶び申し上げます。

昨年は皆様方に多大なる御指導、御鞭撻を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、清水建設九州支店山地支店長様には、九州兼喜会の運営に一方ならぬご理解、ご支援を賜り、この場をおかりして重ねて厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、アベノミクスの効果か、日本経済も底上げされた感があり、株価も上昇、過度な円高も改善され、そこに東京オリンピックの開催決定のニュースが流れ、日本経済にとって、良い話が続きました。

その反面、被災地復興の遅れや、汚染水の問題など、一刻も早い対応が迫られている問題も山積しております。また、環境面では、中国より飛来しているPM2.5による健康被害の問題や、最近の異常気象によるものか、フィリピンの超大型台風に代表されるように、過去に類を見ない規模、勢力のものが続発しております。日本においても、未曾有の大雨や竜巻が多発しており、大変憂慮する事態となっております。被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、建設業界に目を向けますと、全国で厳しい労務不足、資材・機械不足に陥っております。このことは数年前からこうなると分かっていた事であります。

過度の価格競争のしわ寄せは、最前線の職人に襲いかかり、家族を守る為に多くの仲間達が建設業から離脱しました。

多くの危険や重労働は承知の上で、自分にはこの建設業の道しかないのだと覚悟を決めた仲間達は、必死の形相で仕事に邁進してきました。しかし、その表情には未来の不安からか、本当の笑顔が消えていました。その表情を見た次世代を担う若者達は、この業界には未来はないと感じ、いつの間にか建設業は若者から敬遠される業界となってしまいました。

清水建設九州支店、山地支店長様は2012年の4月に御着任されて早々に、「西海道夢プロジェクト」を提唱されました。

西海道とは、九州7県と沖縄県を総称した呼び方です。日本の西の地より、夢に満ちあふれた建設業界を再構築する為に、それぞれの立場で

何ができるのかを、元請け、下請け、先輩、後輩の垣根を越えて、真剣に意見を出し合い、すぐに来る事、もうすぐ出来そうな事、未来に向けてやらなければならない事と分類し、実行して行くプロジェクトです。このプロジェクトの最終目標は、「子供たちが将来になりたい職業ランキング NO1」に我々建設業がなることです。

我々九州兼喜会は山地支店長のこのプロジェクトに深く感謝する次第であります。私たち専門工事業者の存在を、職人の価値を見直して頂いているようで感謝に堪えません。

立派なお城を築くとき、強固な石垣が必要であります。しかし、この石垣はかたちの綺麗な、かたちの大きな石ばかりでは成り立ちません。かたちが整っていない石もあるでしょう。小さな石もあるでしょう。大きな石と石の間を、中・小の石が埋めてこそ強固な石垣となるのです。

昨今の建設業界は、この中・小の石を、会社を、職人をないがしろにしてしまっていたのではないのでしょうか。

建設業で働く人々は、安全を確立する正確さ、繰り返す忍耐強さ、規則正しい生活に裏付けされた強固な体力、そして匠の技、「心・技・体」が要求されます。

非常に高度な能力を持ち合わせておかなければ働まらない職であります。もっとスポットライトが当たっても良いのではないのでしょうか。物は人で建つのです。

今年は午年であります。うま年は縁起が非常に良く、「幸運が駆け込んでくる」とか、「物事がうまくいく」などと言われております。

人間万事塞翁が馬と言われております。良い時は気を引き締め、悪い時は前向きに。明るい兆しは多くあります。職人を大切に、馬力100倍、明るく笑顔で、どんな困難にも乗り越えていきましょう。

我々九州兼喜会は、夢のある建設業に向かって、会員各社日々精進し、清水建設様の社業に今まで以上に貢献できるよう、精一杯邁進する所存であります。何卒、今後ともご指導、ご鞭撻の程をお願い申し上げます。

そして、皆様方にとりまして、2014年が素晴らしい一年となりますよう、又、全ての現場での無災害を心からお祈り申し上げます、新年の挨拶とさせていただきます。本年も何卒、宜しく願い申し上げます。

年頭のご挨拶

清水建設(株) 九州支店
執行役員支店長

山 地 徹



新年明けましておめでとうございます。兼喜会の皆様方におかれましては、つつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は労務不足もひっ迫するなど厳しい環境の中にもありながらも、一方ならぬご支援・ご協力をいただき、こころより感謝申し上げます。本年も、何卒よろしく願い申し上げます。

私も一昨年4月の九州支店着任以来二度目の新年を迎えることとなりました。着任以来、兼喜会の皆様とは各所でコミュニケーションを取らせていただきました。特に、昨年発足させた“西海道 夢プロジェクト”において、いろいろなお提言もいただき、その機会も増えたと喜んでおります。今年も、作業所や安全大会・工種別部会といった業務の場はもちろんですが、その他のイベントなどの機会も増やし、いろいろな世代において心がひとつになっている兼喜会と清水建設、そのような関係を強化させていただければと思っております。

また、“西海道 夢プロジェクト”においては、10年後・20年後の建設業界のために、我々の跡を継ぐ後輩たち・子どもたちのために、“魅力ある建設業界へ向けての提言”もテーマのひとつであります。建設業界で働く皆さんが誇りとやりがいを持って、明るく働ける環境づくりにも取り組んでいきたいと思っております。昨年は、2014年九州支店版カレンダーを作成し、皆さんがものづくりに携わっていただいた作品を日々見えるようにすることで、モチベーション向上を図るなどの活動を始めました。兼喜会の皆様にもカレンダーを多数お求めいただきました。今年一年間、このカレンダーをご愛顧いただければと思っております。今後も職長手当の普及拡大、作業員の方々への支店長表彰などにも、引き続き取り組んでいこうと思っております。

おりますので、ご意見をいただければ幸いです。

しかしながら、我々の目前には、新卒の入職者数減少や若手技能者の建設業離れからの労務不足、就業者の高齢化による技術・技能の継承といった大きな課題がいくつも横たわっているのも事実であります。アベノミクスによる景気の好転、2020年の東京オリンピック開催といった明るいニュースも、むしろ厳しさが増すのではと危惧されている方もおられると思います。ただ、このような状況だからこそ兼喜会の皆さまとスクラムを組んで諸課題を解決し、この難局を乗り切っていくスタートの年にしていければと思っております。

新年にあたり、安全についても一言触れさせていただきます。皆様のおかげで、年度が変わった昨年4月以降、九州支店においては4日以上の上の休業災害が1件も発生しませんでした。これも、兼喜会の皆様方が作業所において地道に災害防止活動に取り組んでいただいた結果と、厚く御礼申し上げます。私は着任以来、“安全第一”の心構えをお願いしてまいりました。昨年4月からは、その思いを形にして全作業所に“安全第一”を掲げ、みんなで実践・本気で実践していただきました。その作業が、その手順が、その設備が、本当に“安全第一”なのか？ 厳しい工期やコストに迫られて、工程第一とか原価第一になっていないか？ 引き続き、常に自問自答しながら、それぞれの立場で業務にあたっていただきたいと思っております。まずは、年末年始労働災害防止強調運動の期間である1月15日までを、そして、その後も今年度いっぱい、無事故無災害で乗り切り、平成25年度の無災害を達成したいと思っております。

終わりになりますが、兼喜会各社様の益々のご隆盛とご繁栄を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしく願い申し上げます。

第22回 清水建設全国連合兼喜会 後継者育成研修報告書

九州兼喜会 青年部
石田土木 株式会社

石田 駿 介

平成25年11月14日(木)～15日(金)に八重洲富士屋ホテルに於いて、清水建設全国連合兼喜会第22回後継者育成研修が開催され、九州支部より3名が参加しました。

初日は、東京兼喜会青年部樋脇部長の司会のもと、全国連合兼喜会青木副会長より「若手リーダー達が変革への対応、将来への展望を追求し、21世紀の建設業を支える若い力を涵養させる」と、本研修会の主旨説明がありました。次いで全国連合兼喜会青木洋次郎会長より「インフラ整備、民間工事が増えている一方、職員不足を初め、厳しい現実には目の前に多々ある、今一度専門業者として何をすべきか考えてもらいたい」とのメッセージを頂きました。弊社としても、厳しい現実と常に向きあい、解決する道を模索していかなければならないと強く感じました。

その後、清水建設幹部の方3名様よりご講話頂きました。最初に、建築事業本部長宮崎隆光様より、ご講話頂きました。内容は建設業を取り巻く環境について、今後、

①東北地方復興の本格化 ②東京オリンピック開催
③豊洲新市場の着工 ④アベノミクス効果による建設投資
上記の事があり、大規模工事の増加への期待と、東北や東京での施工量の過多と労務不足が懸念されることのお言葉を頂きました。弊社も作業員の熟練者から若い人への技術の伝承を考え先持って行わなければならない一つのテーマと認識し、建設技能労働者の育成に取り組んでいきたいと思えます。

次に、安全環境本部地球環境部長穴井仲二様より清水建設の環境への取り組みに関してご講話を頂きました。まず温暖化についての現状、CO₂を削減するための技術(清水建設新本社ビルの様々なCO₂削減技術)について説明がありました。その効果実績(新本社ビル)は年間、従来ビルの66%削減を実現しているとの事でした。続いて、環境事故の事故事例及び、その影響についてお話があり、環境事故の頻度はあまりないが、ひとたび起こすと、信用の失墜になってしまう恐れが大きいので、事前にリスク管理をしっかり行う事が重要であることのご講話を頂きました。

次に、安全環境本部安全部長児島統一様より大手5社の災害統計、要因分析の説明がありました。事故型を分析すると昨年は一昨年と同様に転落が一番多く、一昨年と違うのは墜落の比率が増えているとの事でした。墜落災害の絶滅は今年度の最重点項目であり、その中で

①リスクアセスメントによる計画、
②3現主義で計画が実施されているか現場をみる、
③フルハーネス型安全帯の使用推進、
④がっちり安全帯運動
等の展開があげられています。墜落災害が起きると重篤災害の可能性が大きいので上記4つを徹底して欲しいと

のご講話を頂きました。弊社では、今後、高所作業に限らず、リスクアセスメントの実施、ダブルセーフティーの実行、また3現主義による安全巡視の徹底を行い、重篤災害の撲滅を行っていきたくと考えます。

14日最後は調達・見積総合センター所長福留信也様より近年の労務需給ひっ迫とその対策に関して、ご講話を頂きました。建設業就職者は1995年の7.8万人をピークに減少を続けているとの事です。労働環境の悪化もあり、新規入職者の減少、また熟練技能者の離職も多くなって、技術の伝承が若手にスムーズに行われていないという問題が発生している。その様な状況を打破するための建設業の大きな動きである「社会保険の加入促進」、「法定福利費を内訳明示した見積書の活用」に関して説明があり、続いて、兼喜会業者の若手教育の実例紹介がありました。各社の様々な若手教育活動に関して弊社の今後の参考に活用していきたいです。

研修2日目は江東区越中島の清水建設技術研究所の見学に行きました。まずは建設技術歴史展示室を見学し、本館にて免震構造について説明がありました。技術研究所の免震装置は揺れを感知した際、免震装置の軌跡、加速度計の変化が記録される構造になっているそうです。実際に東日本大震災の時の記録を見せてもらいました。加速度を比較すると、地表面に比べ、2階部分の加速度は半分程度になっており、免震構造の効果を目で見る事ができ、今後とも開発が進み、もっと広まってもらいたいと感じました。

新たに竣工した多目的実験棟においては新本社ビルにも採用されている、最先端のCO₂削減技術や、空調システム、省電力技術について説明を受け、分野の最先端を体感させてもらい技術力の高さに感嘆しました。

最後に、この様な研修を企画して頂き、また参加させて頂きました事に深く感謝し、厚く御礼申し上げます。



沖縄支部 古賀博昭

平成25年11月15日(金曜日)に九州兼喜会青年部は、各支部より26名が参加し、秋の研修会を沖縄県で開催させていただきました。

今回は、工期が厳しく現場も追い込みをかけている中、ホテルオリオンモトブリゾート&スパの見学をさせていただきました。

沖縄県の国頭郡本部町という場所で市内から1時間30分ほど移動したところに現場はあります。近くには海洋博公園・美ら海水族館もあります。

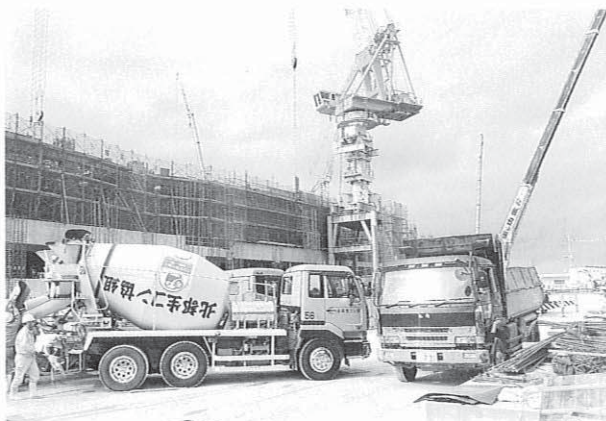
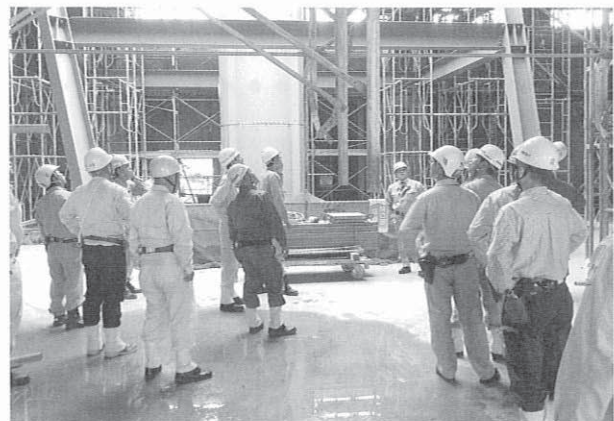
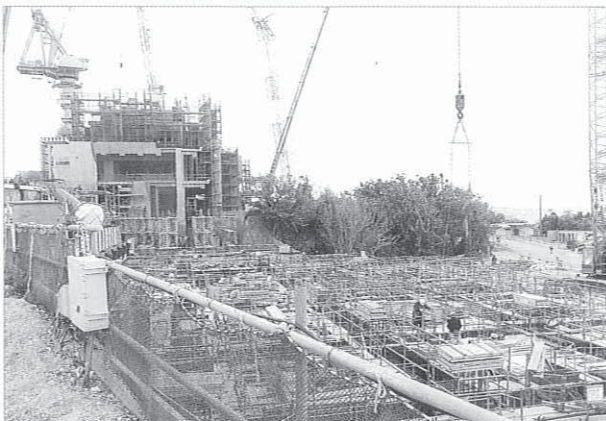
現場の状況は大変厳しい状況で全国的に職人さん不足というのもあり、各県より躯体業者の方々が応援に来ている状況でした。

沖縄県という本州とは簡単に行き来出来ない場所で、現場を進めないといけない、それに踏まえて宿及び食事の確保も考えていかなければいけないという状況で、ピーク時には2000名の職人さんが入るということでした。



工事長をはじめその他監督の方々も休み無くずっと工事を進めている状況を見学させて頂き、その状況を今回参加出来なかった方々へ少しでも伝え、協力出来る事があれば一緒に作り上げていかなければいけないという気持ちになりました。

最後になりますが、今回の研修にはたくさんの方に多大な協力を頂きました。皆様には深く感謝申し上げます。



兼喜会理事会議事録

○理事会

平成25年8月1日(木) 16:00

場 所 兼喜会事務所
出席者 篠森会長他8名、
調達部より谷口部長様

【議題】

1. 10月全九州役員会の件
2. 瀬戸内オープンの件
3. 青年部
4. その他

○理事会

平成25年9月5日(木) 12:00

場 所 兼喜会事務所
出席者 篠森会長他7名、
調達部より谷口部長様

【議題】

1. 10月全九州役員会の件
2. 瀬戸内オープンの件
3. 青年部
4. その他

○理事会

平成25年11月7日(木) 12:00

場 所 兼喜会事務所
出席者 篠森会長他8名、
調達部より谷口部長様

【議題】

1. 12月全九州役員会の件
2. 瀬戸内オープンの件
3. 全国連合兼喜会第55回定時
総会(東北大会)の件
4. 青年部
5. その他

諸 行 事

清友会懇親会

- 11月14日(木)
- ソラリア西鉄ホテル

全九州役員会

- 10月11日(金)
- 鹿児島サンロイヤルホテル
- 出席者:篠森会長他17名
- ◆ 議 題
- 1. 安全大会報告の件
- 2. 瀬戸内オープンの件
- 3. 全九州役員会の件
- 4. その他

全国連合兼喜会支部長会議

- 10月25日(金)
- ロイヤルパークホテル
- 出席者:篠森会長
島田副会長
淵上副会長

会員の動向

叙勲・国家褒章受賞

受賞おめでとうございます

○黄綬褒章

(株)スギヤマ 平成25年11月3日
杉山 秀彦 (68歳)



○黄綬褒章

(株)イマハシ 平成25年11月3日
今橋 一男 (67歳)



会員名変更

○(株)タナチョー福岡支店 25.10.1変更
旧会員名:鴨川國利→新会員名:野中 剛

発行所 福岡市中央区渡辺通3-6-11 福岡フコク生命ビル
清水建設九州支店内 九州兼喜会

印刷所 川本印刷株式会社
TEL 092-591-5110